

## 1) 進行性筋ジストロフィー症末期患者の 救急看護の要点について

国立療養所西別府病院小児科

佐藤 征洋 後藤 スミエ

### <はじめに>

進行性筋ジストロフィー症患児は症状進行に伴い、呼吸筋や心筋がおかされ、突然呼吸停止や心停止を来す事がある。ベッドサイドに位置するナースはいつでも誰でも救急処置が出来るように努力しなければならない。急変したらまず観よ、即ち観察である。吹け、即ちマウスツウマウス。呼べ、即ち連絡。心マッサージせよを合言葉に勇気と決断をもって *First Aid* に当るよう心がけているが、本症は慢性の経過をとる疾患であり、急変時のみの看護処置でなく各患児の状態把握も大切な事である。

### <目的と方法>

今回は昭和50年1月から51年9月までの死亡及び要観察児の集中看護を始めたと思われる時期の症状とその数から看護の要点を把握する為に、当院使用中のチェックリストを全国筋ジス施設20ヶ所に配布し協力を求めた。

### <結 果>

20施設中15施設の解答があり、該当者は112名でありました。50%以上占る項目はスライドのように循環器系で脈拍頻数、不整結代、口唇チアノーゼ。呼吸器系では痰の増加。消化器系では食欲減退であり、その他の症状では顔色不良、疲労倦怠感、胸苦しい、体交頻回の順序であった。排泄の項には該当するものはなかった。調査の結果循環器系、呼吸器系、消化器系の重要項目を三大症状とする私達のチェックリストと見合うものであった。その他の項目の50%以上を占る疲労倦怠感、体交頻回、顔色不良、胸苦しいという症状をも注目したい。スライドのその他の症状としてあげられたもので体温上昇など二次的の症状とみられるものは除外したいと思う。

### <考 察>

心筋の筋力低下やその為に脈拍頻数、不整結代がおこり循環不良をおこし時には突然心停止を来す事があり、呼吸筋力の低下により肺活量の減少や痰喀出困難をおこし、感染に対して弱くなる。腹痛や腹部不快は循環器系から来るものと消化器系機能減退から来るものがあり、調査の結果でも三大症状である脈拍頻数、痰の増加、腹痛や腹部不快の頻度が多く示されており、これらの症状把握は非常に大切だと思われる。又小症状の顔色不良や胸苦しい等もかなりの頻度を示し、見のがせない症状であることは今回の調査からでもうかがえる。50%を割る循環器系の血圧異常、呼吸器系の咳、呼吸異常、消化器系の嘔気嘔吐、排泄の項目は参考程度で良いのではないかと思う。その他の項目の顔色不良、胸苦しいは循環器系から来る事が多いので循環器系へ含め20%を割るめまい、傾眠、興奮、頭痛は除いても良いのではないかと思ひスライドのようなチェックリストを作成した。症状進行に伴い体交頻回、疲労倦怠感を訴えるようになるので緻密な観察と適切な援助がなされな

ければならない。例えば心マッサージ施行の場合、脊柱や胸郭の変形による心臓の位置異常を各個人について知っておく必要がある。以上の事を理解して*First Aid*に心がけその後の維持と管理に全力をつくし延命をはからなければならない。

#### <ま と め>

三大症状のチェックポイントは脈拍頻数、痰の増加、腹痛腹部不快であり、小症状のチェックポイントは顔色不良、疲労倦怠感、胸苦しい等50%以上を占める症状で、今回のチェックリストは全国的に使用出来ると思う。

## 2) 筋ジストロフィー患者の精神活動の援助 としての野外体験の試み

国立療養所兵庫中央病院

田 島 きよみ 荒 木 エリ子  
習 田 敬 一

病棟開設以来11年を経過した当院では、中卒患者が過半数に達している。日中の大部分を学校で過ごす通学者達と異なり、中卒患者達は教育の機会にも恵まれず病棟内の狭い世界で無為に過ごす時間が多い。当院でも種々の行事が計画され実施されているが、病棟内や施設内でのものが多く、真に広い自然に親しむ体験がほとんどない状態であった。たまたま当院に隣接してゴルフ場があり、そこに患者達を連れ出すことを病棟スタッフ一同が思い立ちゴルフ場の協力を得て実施することができた。通常、当院では患者達の外出は「親の会」の計画と責任のもとに、患者の移動も全て親が実際に行なっているため外出の機会は非常に制限されている。しかし今回は計画、実行、責任、全て病棟スタッフで行なった。

この小ピクニックの試みは天候にも恵まれ、患者達にも好評で大成功であったのだが、いくつか反省すべき点や問題点があった。すなわち発案から実施までの期間が短かすぎて十分な検討や準備に欠けたため、患者の移動介助には病棟日勤者だけでは不足し、勤務以外のスタッフの協力を要した。またその移動には比較的交通量の多い県道を人手に頼って行なわざるを得ず危険を伴った。最も大きな問題点は、この様な外出に際しての責任の所在についてであり、この点を含めて今後も検討し、患者達の体験の場をさらに広げて、その人生を意義あるものにする努力を続けねばならない。

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

<はじめに>

進行性筋ジストロフィー症患者は症状進行に伴い、呼吸筋や心筋がおかされ、突然呼吸停止や心停止を来す事がある。ベッドサイドに位置するナースはいつでも誰でも救急処置が出来るように努力しなければならない。急変したらまず観よ、即ち観察である。吹け、即ちマウスツウマウス。呼べ、即ち連絡。心マッサージせよを合言葉に勇気と決断をもって First Aid に当るよう心がけているが、本症は慢性の経過をとる疾患であり、急変時のみの看護処置でなく各患者の状態把握も大切な事である。